

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2874400498		
法人名	特定非営利活動法人ダーナ		
事業所名	グループホーム くりあん		
所在地	兵庫県豊岡市大磯町6-24 (電話)0796-23-0685		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年2月21日	評価確定日	平成20年4月21日

【情報提供票より】 20年 1月 25 日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤	人, 常勤換算8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(90,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (1 月 25 日現在)

利用者人数	8 名	男性	5 名	女性	3 名
要介護1	2	要介護2	3		
要介護3		要介護4	1		
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均 78 歳	最低	57 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しらゆり診療所
---------	---------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>名前の由来となった「旧里庵」のように古い民家の内部を改装し、ところどころ残された昔の家屋の趣が周囲の風景に溶け込み、地域の方が親しみを持って気軽に立ち寄れる雰囲気施設である。日頃から地域住民の方とは自然な形で交流が出来るように心がけ、利用者一人ひとりが、家族として自分らしく安心して生活が過せるように職員全員が周知し、一丸となって取り組んでいる。医療機関・医師との連携を密にし、ご利用者の身体状況の共有を図り受診体制、健康管理が出来ている。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>今回の評価に当たって、事業所内に自己評価表を貼り出し、職員に意見を書いてもらうようにした。また会議などで、項目を一つずつ検証し、スタッフからの意見を吸い上げるなど評価に対して前向きに取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>運営推進会議は地域の区長には具体的に声はかけているが、地域の方や家族などメンバーが選出されておらず実施までに至っていない。、今回の外部評価をもとに実施を予定している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>月に1度の利用料の請求書を送る際に利用者の暮らしぶりや身体状況などを書いて同封している。また、家族の面会時に利用者の様子を細かく伝えるようにして、会話の中から家族の思いや意見などを聞き取るようにしている。利用者の体調不良時、事故発生時にも随時報告は丁寧に行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>近隣の人々とは季節のお花を持ってきていただくなど自然な形で交流が行えている。事業所のイベントにも地域住民の方が参加されることもある。また、より事業所を知っていただくため、日頃からまず顔見知りになるよう挨拶を心がけ、交流が出来るよう意識している。</p>

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境のもとで、利用者がその有する能力に応じ可能な限り自立して営むことができるよう支援することを目的としている。また利用者がこれまで歩んできた背景を理解し、これまでのライフスタイルを出来る限り継続して頂けるような支援をすることを心がけた理念を掲げている。		地域とのかかわりや交流に関しての役割も理念の中に明示されることが望ましい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は折に触れ説明をしたり、職員と話し合うことで理念への意識は共有できている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々とは季節のお花を持ってきていただくなど自然な形で交流が行えている。事業所のイベントにも地域住民の方が参加されることもある。また、より事業所を知っていただくため、日頃からまず顔見知りになるよう挨拶を心がけ、交流が出来るよう意識している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>今回の評価に当たって、事業所内に自己評価表を張りだし、職員に意見を書いてもらうようにした。また会議などで、項目を一つずつ検証し、スタッフからの意見を吸い上げるなど評価に対して前向きに取り組んでいる。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は地域の区長には具体的に声はかけているが、地域の方や家族などメンバーが選出されておらず実施までに至っていない。、今回の外部評価をもとに実施を予定している。</p>		<p>地域住民、家族など幅広い立場の方が参加できるようにメンバーを選出し2ヶ月に1度開催されることが望ましい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>開設当初から相談する機会は多くあり、市とはメールなどで情報交換を行い相談や意見などをもらい連携を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1度の利用料の請求書を送る際に利用者の暮らしぶりや身体状況などを書いて同封している。また、家族の面会時に利用者の様子を細かく伝えるようにしている。利用者の体調不良時、事故発生時にも随時報告は丁寧に行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに積極的に話をする機会を設け、会話の中から家族の思いや意見などを聞き取るようにしている。		家族会の開催や無記名のアンケートなどを行い、意見を出せるような仕組みをつくり、家族の意見を吸い上げていくような取り組みが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を第一に考え、やむなく職員が離職しても、ボランティアとして手伝いに来てもらうなど馴染みの関係を継続できるように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に一度医療、福祉分野などテーマを上げての研修を計画し、研修費を負担して積極的に参加できるよう取り組んでいる。また来期には、全職員が一人一研修を自発的に探し出し取り組んでいく予定もある。新人研修は3ヶ月間現場で働きながらの研修をおこない、随時管理者との話し合いも入れている。		外部研修だけでなく内部研修もとりいれていくこと、また職歴にもあわせての研修実施も望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会のつながりはある。相互間で事業所内を見学する機会もあり、サービスの質向上にもつなげている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>可能な限り事業所見学をしていただいている。また体験入居も出来る体制はつくっていないことが多いため、本人の精神的安定をなくしては家族の安心はないという点を重視した利用までのスケジュール作りを考えている。</p>		<p>入所前に自宅に訪問し顔見知りの関係を作り、本人、家族から心身の状況を把握するなど、十分コミュニケーションをとり、不安なく入居できる取り組みを期待する。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常的に職員とふれ合いの中で、人生の先輩として尊敬し、教えてもらいながら一人ひとり自主性をもって共同生活を支えあい、ホーム内の生活を楽しく過ごしている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常会話中の言葉を大切に一人ひとりの思いや希望など意思に添えるよう努め、無理強いをしないようしながら自立した生活が送れるよう支援している。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時に本人の生活歴など詳しく把握しアセスメントを行って、本人のニーズを明確にしている。カンファレンスにおいても職員間で検討し、本人や家族の意向を反映した個別の具体的な介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>年に3回、利用者、家族との話し合いのもと見直しを行っている。入居者の状況変化などあるときは柔軟な対応をし、情報伝達、承諾は出来ているが即見直しをし計画書の作成とまでは至っていない。</p>		<p>安定している場合でも月1回程度計画を見直し、実情に即した計画変更が望ましい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者や家族が安心して暮らせるような柔軟な対応を心がけており、散髪、お寺参りなど個別に支援している。また医療連携体制を生かして事業所内にて利用者の点滴処置も行っている。</p>		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>希望すればなじみの医師にも受診可能である。医師とは連携をとって情報の共有化が出来ており、受診も急変時以外は事前に状態をFAXで報告してから行っている。利用者本人の健康状態、受診結果については家族に対して報告をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>書面での承諾は得ていないが、利用者と家族の安心と納得を得られるように口頭での説明は繰り返し行っている。終末期・重症化した場合の医療体制は整っており、利用者と家族の安心が得られるように口頭で繰り返し説明は行っている。</p>		<p>重度化や看取りについてのマニュアルを作成し、方針や対応についての職員間で共通認識を持つために、ミーティングや研修会を計画的に開催することが望ましい。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が、利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか、自分の言った言葉を振り返るよう職員間で十分注意している。利用者の尊厳を大切に一人ひとりの視点に立った声かけや対応に努め、名前の呼び方もその方らしい適切な呼び方を心がけている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の都合によりスケジュールを優先し、利用者の生活をあわせているところもあるが、利用者がしたいことを言葉や行動で把握し出来る限り希望にあわせるようにしている。</p>		<p>ホームの1日の流れの中で、入居者一人ひとりの力量・身体状況・思いを大切にしながら個々のペースに合わせ、自立した生活が過せる支援が求められる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みを聞きながら立てられ可能な限り食事の準備を職員と共に行っている。食事時間は職員と共と会話を楽しみながら楽しく食べられるよう配慮されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は基本的には午後からであるが、無理強いはない。可能な限り利用者の希望やタイミングにあわせるようにしている。また利用者の状態に応じて、2人で介助をしスムーズで安全な入浴が行えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の身体状況や力量に応じて調理の手伝い、後片付け、掃除、メモ作りなど幅広く行われている。また、趣味を把握し、出来る限り利用者の活力を引き出すよう努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ本人の気分や希望に応じて季節を感じてもらい、心身の活性に繋がるよう日常的に近くの学校までの散歩やコンビニエンスストアへの買い物などに出掛けている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に施錠は一切していない。夜間20時から玄関のみ施錠している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所内だけではあるがマニュアルを作成し、責任者を決めた事業所内職員のための避難訓練は設立から今まで2回行ったことがあるが、利用者の参加、地域住民の参加、協力を得ながらの避難訓練は行ったことはない。		事業所内職員だけの訓練に加え、利用者の参加、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に行い、また夜間を想定した訓練を年に2回は行うようにしていくことが望ましい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや体調により食材や調理の工夫をするなど柔軟な対応が出来ている。献立にも偏りがなく栄養バランスも考えられている。食事量や水分量をチェックし、排泄量にも注意して健康状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前料亭として使われていた建物を改装しているため、ところどころに昔の家屋の趣が残されており、家庭的でなじみやすい環境が感じられる。また食堂からは中庭が見渡せ季節感が感じられるとともに広い窓から入ってくる自然光が利用者にとってよい刺激となっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、スプリンクラー以外全て個人の持ち込みとし、居室使用に特に制限を設けていない。自分の趣味の物や馴染みあるものを自由に持ち込み、利用者の個性を生かした環境が造られている。また居室内に家族も宿泊できるようにスペースを造り、利用者がより安心して過ごしていただけるよう配慮されている。		

 は、重点項目。